

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ルフレいなぎ 児童発達支援事業所		公表日 令和8年2月10日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	57.1%	42.9%	・こどもの様子や、遊び、活動内容に合わせて部屋やエリア分けをしている。 ・お子さんの発達段階や特性に合わせて2つのグループに分けるなど、少人数での活動を実施している。 ・グループで交代しながらお部屋を使用している。	・法令を遵守したスペースではあるが、活動内容によっては狭く感じることもある。公園など地域の資源も積極的に活用するなどの工夫が引き続き必要。 ・引き続き、こどもの様子や遊びの内容によって、エリアを分けながら、安心して遊べる環境の工夫を検討していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	85.7%	14.3%	・法令に定められた職員数よりも1～2名多く配置している。 ・グループ療育では必要時にグループ担当以外の職員がサポートに入るなどし、安全に運営できるようにしている。	・その日のこどもの状態によって、職員数が足りなく感じることがある。エリア分けなど環境調整も含めて工夫が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100.0%		・視覚的にわかりやすいエリア分けやスケジュールの提示などを行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100.0%		・療育終了後は掃除（掃除機かけ、マットの消毒等）を毎日行っている。 ・利用児の遊びや発達段階に合わせた環境を毎回設定している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	85.7%	14.3%	・必要に応じて、部屋を棚で仕切り、落ち着いて過ごせる場所・安心して過ごせる場所を設置している。	・部屋数などの環境は限られており、個別療育や相談、面談などのスケジュールによっては療育室以外の使用が難しいこともある。療育室のエリア分けやこどもの状況に応じたスケジュール設定が必要。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	71.4%	28.6%	・毎日振り返りを実施し、必要に応じて改善策を検討している。 ・業務の課題に関しては、全体会議で話し合う機会を設け、検討している。	・会議や話し合いに参加していない職員の意見の吸い上げには工夫が必要。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	85.7%	14.3%	・毎年保護者向けアンケートを実施し、必要に応じて改善策を検討・実施している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	85.7%	14.3%	・職員面談において業務等に関する聞き取りをしている。 ・会議や振り返りの中でも、職員が意見を伝えることを大切にしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	85.7%	14.3%	・第三者評価は実施していないが、オンブズマンや外部のスーパーバイザーに来訪してもらい、実際の療育を見てもらう中で意見をもらい、改善に繋げている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100.0%		・法人内研修（児童分野研修、法人全体会議等）と事業所内研修（「コドモン」研修、感染症、ハラスメント、虐待防止、不審者対応等）、e-ラーニングなどで定期的に研修を実施している。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和8年2月10日				
ルフレいなぎ 児童発達支援事業所						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	85.7%	14.3%	・支援プログラムは法人のHPに公表している。	・年度の途中から利用し始めた保護者には公表先の案内ができていないため、入園のしおりに掲載するなどの工夫が必要。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100.0%		・法人共通のアセスメント表を使用し、こどもの全体像を把握したうえで、支援計画を作成している。その際、保護者記入の支援フォームや職員間の話し合いにより作成している。 ・こどもの成長したところも保護者の方と確認するようにしている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100.0%		・日々の振り返り等でお子さんの状況や様子を共有し、その情報をもとに支援内容を検討している。 ・職員間で話し合いをして作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	71.4%	28.6%	・こどもの様子や支援について、振り返りで共有し、計画に沿った支援が提供できるようにしている。	・支援計画の共有は改善が必要。 ⇒共有のための会議を実施する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	71.4%	28.6%	・法人共通のアセスメント表を使用し、こどもの全体像を把握したうえで、支援計画を作成している。 ・フォーマル検査（新版K式発達検査、WISC-IV、田中ビネー知能検査など）を実施している。 ・日々の振り返りでは、こどもの様子や変化などを職員間で共有している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100.0%		・法人共通のアセスメント表を使用し、全項目をアセスメントしたうえで、支援内容の優先順位をつけ、支援の目標と内容を作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	28.6%	71.4%	・グループごとに担当制にしているため、担当者がプログラムを立案している。 ・その際に、こどもの狙いや支援の方向を確認している。	・グループごとに担当制にしているため、振り返りや打ち合わせでは他の職員の意見を聞き、意識して活動に取り入れる工夫が必要。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	85.7%	14.3%	・制作、運動、調理、ルール遊びなど多様な活動を取り入れている。 ・必要に応じて、同じ活動を繰り返し提供することで、“わかる”“知ってる”に繋げ、安心して活動に参加できるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	85.7%	14.3%	・活動内容に応じて、少人数で行う・クラス全体で行う等、調整している。 ・希望制ではあるが、専門職（心理・ST）による療育は個別で実施している。また、必要に応じて、保護者に個別療育の利用を勧めている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100.0%		・朝の打ち合わせ時に、一日のスケジュールと支援内容について共有している。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ルフレいなぎ 児童発達支援事業所					公表日 令和8年2月10日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
適切な支援の提供	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100.0%		・クラスごとに振り返りを行い、話し合いの内容を記録している。			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	57.1%	42.9%	・クラスごとに行った振り返りを記録している。	・面談や会議等で記録ができないこともあるため、工夫が必要。 ⇒クラスの業務日誌の書式を変更し、支援の検証や改善をしやすいとする。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100.0%		・半年に1回、個別支援計画の見直しを行い、計画を再作成している。			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	85.7%	14.3%	・管理者、児童発達支援責任者、グループ担当者、個別療育担当者が参加している。 ・複数名で参加している。			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	71.4%	28.6%	・保護者の希望に応じて、こどもの所属園に訪問し、情報共有を行っている。 ・保育所等訪問支援事業を利用している場合は、担当者との連携を密にすることで、所属園との共有を図っている。 ・必要に応じて、子ども家庭支援センターや特別支援教育相談室、他事業所との連携を図り、こどもと家族の支援を行っている。	・所属園の訪問や他事業所との共有ができていないこともあり、十分とは言えない状況がある。 ⇒保護者の希望を伺いながら、所属園の訪問等を進めていく。		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	71.4%	28.6%	・保護者のご希望に応じて、移行先の機関と話し合いの機会を設けている。 ・今年度は実績はなし。			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100.0%		・保護者に就学支援シートの活用を勧め、作成することで学校への引継ぎを行っている。 ・就学後に学校訪問をし、こどもの状況の確認及び学校との情報共有を行っている。 ・こどもの状況に合わせて、保育所等訪問支援事業の利用に繋げている。			
	28	(28～30は、センターのみ回答)						
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。						
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。						
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。						
31	(31は、事業所のみ回答)	100.0%		・地域の児童発達支援センターとはこどもの情報共有や支援の検討等、連携を図っている。 ・グループ療育、個別療育には外部のスーパーバイザーを導入し、年に6回程度スーパーバイザーを受けている。				
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイザーや助言等を受ける機会を設けているか。							

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和8年2月10日				
ルフレいなぎ 児童発達支援事業所						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	28.6%	71.4%	・ほとんどのこどもが幼稚園や保育園と併用しているため、交流の機会は設けていない。 ・所属園への訪問等を行い、連携することを大切にしている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100.0%		・日々の送迎や連絡帳にて、保護者の方と情報共有をしている。	・会う機会が少ない保護者の方とは、連絡帳でのやりとりが主となるため、工夫が必要。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	71.4%	28.6%	・年に2回保護者勉強会を開催している。 ・年1回の保護者交流会では就学についてのミニ勉強会を行った。 ・地域の学習会はコドモンでの配信及びチラシの掲示を行い、情報共有をしている。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100.0%		・契約時に説明している。 ・契約書や重要事項説明書以外に、利用のしおりを作成し、説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100.0%		・支援計画作成前に、「支援フォーム」にて保護者の方の意向を確認している。また、面談時にも改めて確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100.0%		・支援計画作成時には、面談を実施し、保護者の方に説明をし、同意をいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100.0%		・年に2回、支援計画の作成時に面談を実施している。その際に、ご家族からの相談もお受けしている。 ・個別療育では、毎回療育の終わりに保護者の方と話をする時間を設けている。 ・ご希望に応じて、随時面談を実施している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	85.7%	14.3%	・年2回のオリエンテーション（保護者会）の実施や、家族参加の土曜イベントを実施している。 ・保護者交流会を年1回、開催している。	・保護者交流会は参加者が少ないため、工夫が必要。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100.0%		・契約時に苦情解決システムについて説明をしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100.0%		・保護者との連絡ツール「コドモン」にて、活動の様子を写真を掲載している。 ・ルフレだよりを年4回発行している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100.0%			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100.0%		・文字、イラスト、写真などわかりやすく情報を伝える工夫をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	14.3%	85.7%	・地域の自治体に加入している。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ルフレいなぎ 児童発達支援事業所		公表日 令和8年2月10日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	85.7%	14.3%	・各種マニュアルは策定している。 ・今年度は、感染対策として嘔吐処理研修（実技）、不審者対応訓練、緊急時対応訓練を実施した。	・マニュアルは会議内で周知しているが、全職員の周知ができていないこともあり、周知の仕方に工夫が必要。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	85.7%	14.3%	・BCP（感染症・災害発生）は策定している。 ・避難訓練、災害伝言ダイヤル体験を実施した。 ・非常食や災害対策グッズ、消火器などの防災備品を購入し、整備した。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100.0%			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100.0%		・医師の指示書に基づいて対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100.0%		・安全計画を作成し、計画に基づいて研修や訓練を実施している。	・公園など課外活動で使用する場所の安全点検が不十分だった。年間計画に落とし込み、実施していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	71.4%	28.6%	・安全計画の内容や取り組み実績は「コドモン」での配信及び後期オリエンテーションで説明した。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100.0%		・日々の振り返りで、ヒヤリハットを職員間で共有し、改善策を検討している。また、月ごとにインシデントアクシデントを集計し、職員に周知している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100.0%		・法人全体で権利擁護に関する研修を実施した。 ・事業所内ではアンケートの実施と「小さな出来事」研修を実施している。	・日々の中では、「小さな出来事」がより適切な支援になるように、研修や話し合いを通し、職員の専門性の向上を目指す。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100.0%		・安全確保のための保育室の施錠やシートベルトロックに関しても、支援計画に記載している。		